

セブン&アイ・ホールディングス(3382)



－ 米スノコLPからのコンビニ買収を好感 －

セブン&アイ・ホールディングスが6日に発表した2017年2月期の決算は、売上高に当たる営業収益が前期比3.5%減収、営業利益が同3.5%増益となりました。営業収益は円高の影響で減収となりましたが、営業利益は堅調なコンビニ事業に加え、イトーヨーカ堂の大幅な収益改善もあって増益を確保し、過去最高益を更新しています。

今期は営業収益が前期比4.5%増収、営業利益が同6.0%増益となる見通しです。海外を中心にコンビニ事業が引き続き好調なほか、イトーヨーカ堂での改善が続くうえ、百貨店事業も好転する計画となっています。コンビニ事業の利益計画は保守的にもみえますが、その一方でイトーヨーカ堂や百貨店事業の計画はハードルが高そうにみえます。

決算発表翌日(7日)のセブン&アイ・ホールディングスの株価は4%以上上昇しました。決算には大きなサプライズはありませんでしたが、同時に発表された米国のスノコLP(SUN)からのコンビニエンスストア買収が好感されました。セブン&アイ・ホールディングスはガソリンスタンド併設型のコンビニエンスストア1,108店舗をおよそ33億ドルで買収する計画です。

セブン&アイ・ホールディングスの説明によれば、買収するコンビニは米国で展開するセブンイレブンの店舗と同等かそれ以上の実績を残しているようです。買収する店舗の1店舗当たりの日販は米国のセブンイレブンの店舗と同等以上で、ブランド力が高いガソリンの販売量はセブンイレブンの1.5倍にのぼるとのことです。

このため今後15年間にわたりスノコLPよりガソリンの供給を受ける契約を締結する予定です。それによりブランド力のあるガソリンをセブンイレブンの店舗でも販売することが可能になり、ガソリン販売の拡大も期待できるとしています。また、出店地域もセブンイレブンの店舗と重複しており、ドミナント化が図れる点もメリットとだとしています。

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会